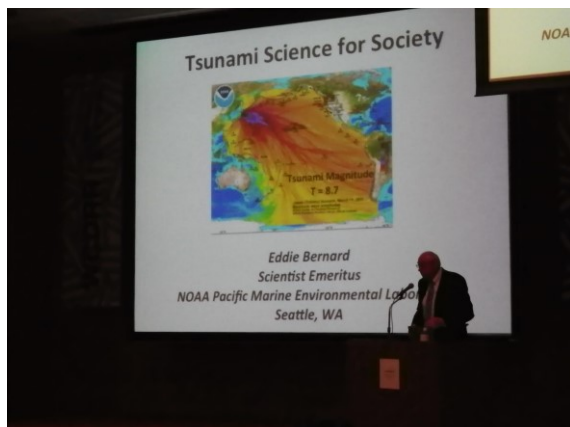


第3回国連防災世界会議でパブリックフォーラムを開催しました (2015/03/15)

テーマ：シミュレーション・センシング・G空間情報の融合による減災力の強化
場 所：東北大学川内キャンパス マルチメディアホール

3月15日（日）、第3回国連防災世界会議のサイドイベントとして、パブリックフォーラムを開催、当研究所からは越村俊一教授(災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野)が参加しました。東北大学災害科学国際研究所の主催で行なわれた本イベントでは、「シミュレーション・センシング・G空間情報の融合による減災力の強化」をテーマに、東日本大震災の教訓を踏まえ、我が国が持つ最先端のシミュレーション・センシング・地理空間情報解析技術を統合した最先端のG空間防災モデルの実証の成果を発信しました。本フォーラムは、全体で3部構成になっており、総務省G空間シティ構築事業、JST戦略的創造研究推進事業（CREST）など世界最先端の減災技術および科学研究の成果を報告し、地球観測による減災に向けた国際活動など、東日本大震災の教訓を踏まえた減災力の強化に向けた成果を、来場の皆様と共有させて頂きました。国内外から約150名が参加し、活発な議論が行われました。また、このパブリックフォーラムと平行して、技術展示も行いました。

このパブリックフォーラムにおける成果は、3月24日の国会における参議院総務委員会で、民主党石上俊雄議員が総務省および総務大臣にG空間シティ構築事業の成果について質疑を行い、成果の重要性と今後の展開について非常に有益なコメントを頂きました。



左上：Eddie Bernard 前NOAA/PMEL 所長による特別講演

右上：越村教授による報告

左：技術展示の模様

文責：越村俊一（災害リスク研究部門）
（次ページへつづく）

国連防災世界会議パブリックフォーラム シミュレーション・センシング・G空間情報の融合による減災力の強化

日 時：2015年3月15日 9:30~16:45 (開場9:10)
会 場：東北大学川内キャンパス マルチメディアホール
主 催：東北大学災害科学国際研究所

開催趣旨 東日本大震災の教訓を踏まえ、我が国が持つ最先端のシミュレーション・センシング・地理空間情報解析技術を統合した最先端のG空間防災モデルの実証の成果を発信します。本フォーラムは、全体で3部構成になっており、総務省G空間シティ構築事業、JST戦略的創造研究推進事業（CREST）など世界最先端の減災技術および科学研究の成果を発信するとともに、地球観測による減災に向けた国際活動など、東日本大震災の教訓を踏まえた減災力の強化に向けた成果を皆様と共有させて頂きたいと思ひます。

第一部 9:30~12:00

総務省G空間シティ構築事業成果報告
リアルタイム津波浸水・被害予測・災害情報配信による自治体の減災力強化の実証事業
開会挨拶 越村 俊一 東北大学災害科学国際研究所 教授
基調講演 今川 拓郎 総務省地域通信振興課長
基調講演 柴崎 亮介 東京大学 教授
特別講演 Eddie Bernard 前NOAA/PMEL 所長
プロジェクト報告（事業責任者および外部講演者）
総 括

第二部 13:00~14:30

JST戦略的創造研究推進事業（CREST）成果報告会「大規模・高分解能数値シミュレーションの連携とデータ同化による革新的地震・津波減災ビッグデータ解析基盤の創出」
越村 俊一（東北大学災害科学国際研究所 教授）
堀 高峰（海洋研究開発機構 グループリーダ代理）
関本 義秀（東京大学生産技術研究所 准教授）
山崎 文雄（千葉大学大学院工学研究科 教授）
瀬崎 薫（東京大学空間情報科学研究センター 教授）

第三部 14:45~16:45

地球観測による減災技術の展望
越村 俊一（東北大学災害科学国際研究所 教授） | Simonetta Di Pippo (Director, UNOOSA) | Ivan Petiteville (Chair, Disaster Working Group, ESA/CEOS) | 石田 中 (宇宙航空研究開発機構JAXA) | Günter Strunz (Head of Department, DLR) | Joachim Post (Expert, UN-SPIDER) | 池田 誠 (アジア防災センターADRC) | ディスカッション

お問い合わせ：東北大学災害科学国際研究所・越村俊一までメールでお願いします。
koshimura@irides.tohoku.ac.jp

会場のご案内：川内北キャンパスマルチメディア教育棟内、マルチメディアホール
※駐車場はございませんので公共交通機関でお越し下さい。

